

私たちの活動を紹介します

日野町 美しい伯備線に出会う まちの会

<会長> 久城 雅文さん

<設立> 令和6年4月

<会員数> 高校生から社会人まで数名
(活動により参加者は異なります)

<公式ホームページ>

<https://sites.google.com/view/hakubisen-hino>



ファンの方へ向けて案内看板を設置する様子

伯備線の撮影ポイントを整備

「美しい伯備線に出会うまちの会」は、令和6年4月に発足しました。主な活動内容は、伯備線沿いの撮影ポイントの整備です。伯備線は国内唯一の夜行列車「サンライズ出雲」などが毎日走る路線。列車を目的に訪れる観光客のため活動をしています。

地域の美しい写真に注目

今年の6月、国鉄時代の381系電車「やくも」が定期運行を終えました。この「やくも」を撮影しようと鉄道ファンが多く訪れていました。JR根雨駅から黒坂駅間は「ネウクロ」と呼ばれる人気の撮影ポイントがあり、駐車や撮影マナーの問題に直面。悪い面ばかりがクローズアップされました。しかし、町内出身の故・田淵康成さんは、鉄道ファンが撮る素晴らしい写真に注目。地域の宣伝になると考え、自費で彼らの作品を収めたミニ写真集を制作しました。そして、根雨駅に降り立った夜行列車「WEST EXPRESS 銀河」の乗客に無償で配布し、沿線の豊かな自然と列車のおりなす美しい風景を広める活動がはじまりました。田淵さんは年頭に亡くなりましたが、その遺志を引き継ぎ当会が発足しました。当会の名称は、ミニ写真集の中にあっただ言葉からいただきました。



日野の雪景色と381系電車「やくも」(写真提供：小西昌史さん)

鉄道ファンにできる限り協力したい

令和6年2月に、日野町、JR、地域住民との会合に出席し、各撮影ポイントの問題点や駐車場の場所について具体的に提案しました。5月には日野町の努力で、2か所で住民提供の無料駐車場がオープン。撮影ポイントとなる8エリアには、当会が中心となり19本の案内看板を設置しました。看板を建てていると、鉄道ファンの方々から「ありがとうございます、気をつけます」と言っただけ、大変うれしかったです。

実は、遠方から訪れる鉄道ファンが中心となり、沿線の田畑の草刈りを何度も実施されています。自主的に農家さんに相談して作業日程を計画し、鉄道ファン仲間を集めて実行される姿に、私たち住民側もできる限り協力していきたいと考えています。ファンが押し寄せることに反対していた農家さんからも感謝の言葉がありました。

住民と鉄道ファンとの架け橋になりたい

鉄道ファンによって、日野地域は観光地としての魅力を発見してもらいました。活動する上で大切にしていることは、住民とファンの間立って、相互理解がすすむよう「融和」による解決方法を探ること。今後は、有料撮影デッキを設置し、自治会等へ経済的メリットが出る仕組みづくりをしたいと考えています。また、写真展を開催して、見慣れた風景であっても実はとても美しい景色であることを、地元住民の方に再認識してもらいたいです。ウェブサイトではメンバー志望者のほかに、アイデアや様々な意見を募集しています。草刈りイベントやその他の活動を行う際には告知しますので、ぜひご参加ください。